

のびゆくひおきっ子の授業



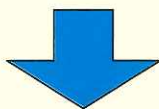
本市教育委員会では、小・中・高等学校間等の連携を密にして、9年間を見据えた子どもたちの学力及び教職員の指導力の向上を目指し、本市の学力向上を一層推進することを趣旨として、平成24年度から「のびゆくひおきっ子事業」に取り組んでいます。

このリーフレットでは、本事業の趣旨を達成するために、本市教育委員会の学力向上策の「日置市学力向上重点5項目」を軸として授業を改善する視点を紹介します。

各学校の校内研修で活用したり、日々の授業づくりの参考にしたりして、毎日の授業の改善に役立ててください。

日置市学力重点5項目

	目 標	重 点 項 目
学習指導	学習の基盤となる言語力の育成	自分の考えを書く活動の充実
	思考力・判断力・表現力の育成	自分の考えを発表し、話し合う活動の充実
	各教科の基礎・基本となる知識の習得	反復学習などの繰り返し学習の充実
読書指導	読書活動の充実	読書の量と質の確保
連 携	家庭学習の充実	家庭学習60・90運動の充実



どのような授業を行ったらいいのでしょうか。

授業づくりの「キーワード」

書く活動

話し合い活動

繰り返し学習

日置市教育委員会

1 授業改善7つのポイント

学習指導要領では、学力向上のために、「基礎・基本の習得」、「思考力・判断力・表現力の育成」、「学習意欲の向上」等が重視されています。このことから本市教育委員会では、「自分の考えを書く活動」、「自分の考えを発表し、話し合う活動」、「反復学習による繰り返し学習」を充実させることを市の重点項目として位置付け、学力向上のための方策としています。

その方策を具現化するために、次の7つのポイントを授業に取り入れましょう。

① 学習のねらいに即した「めあて」の工夫

② 解決の見通しや学習の見通しを立てるための工夫

③ 自力解決の場の工夫

④ 個々の考えや調べた結果等を練り上げる場の工夫

⑤ 「めあて」に即した「まとめ」の工夫

⑥ 分かったことを試し、練習する場の工夫

⑦ 次時の学習の予告と家庭学習の工夫

市重点項目を意識した授業にしましょう。

「自分の考えを書く活動」を取り入れましょう。

「自分の考えを発表し、話し合う活動」を充実させましょう。

「反復学習などの繰り返し学習」を工夫しましょう。

2 1単位時間の指導過程

どこの学級でも、どの教科でも同じような指導過程で授業を行うと、子どもたちはやがて見通しをもって授業に取り組むことができるようになります。

ここでは、授業改善7つのポイントを踏まえた基本の指導過程を紹介します。

過程	学習活動	留意点
つかむ	1 学習課題を提示し、学習のめあてを立てる。 2 学習の見通しを立てる。	※ 前時の比較等から、本時のめあてを立てさせる。 ※ 答え、方法の見通しを立てさせる。
見通す	3 見通しに沿って自分で解決する。	※ 自分で解決できるようにするために、様々な教材を準備する。 ※ 解決の方法をノート等にかかせる。
解決する	4 解決したことを発表し、練り上げる。	※ 書いたものを発表させる。その根拠も説明させる。
まとめる	5 本時のまとめをする。	※ 発表させたものを類型化し、どの方法がめあてに即したものなのか検討させる。
深める	6 定着を図るためのドリルを行う。 7 学習を振り返り、次時の予告・家庭学習の課題を提示する。	※ 学習した内容のドリルを行う。 ※ 本時の内容を定着させるための家庭学習の課題を与える。

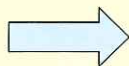
3 めあてとまとめ

授業には、めあてとまとめが必要です。授業では、この時間で何を学習させるのかその内容をはっきりさせることが最も重要です。そのことがまとめであり、本時の学習の基礎的・基本的な内容となります。

そのまとめを問題化したものがめあてとなります。めあてが疑問形になっていると、子どもたちがまとめやすくなります。できる限り、疑問形のめあてを立てるようにしましょう。

〔めあてが疑問形の場合の例〕

《めあて》「2位数+2位数の計算はどのように計算したらいいのだろうか。」



《まとめ》「十の位が二けたになったら、百の位に繰り上げて計算する。」

疑問形でないめあての場合は、「計算のしかたを考えれば」めあてを達成したことになります。一方、疑問形のめあては「どのように計算するのか」、その計算方法を明らかにして、初めてめあてを達成することになり、この時間で学習したことがはっきりすることになります。

4 見通し

学習指導要領では、子どもたちに見通しをもたせることの重要性を述べています。めあてを立てた後、どのように授業が展開されるのか、方法・解決などを見通しをしっかりと立てさせるようにしましょう。

また、教師自身もその子どもの見通しから、本時の流れを修正することもできるようになります。

見通しの種類

答えの見通し 方法の見通し 授業全体の流れの見通し など

5 一人学び ⇒ 練り上げ

子どもたちの思考力・判断力・表現力の育成するためには、子どもたちがしっかりと自分で考え、その考えを発表し、練り上げることが大切です。そこで、授業に、「一人で考える場」、「自分の考えを発表し、話し合う場」を位置付けるようにしましょう。

また、一人で学ぶためには、様々な教材・教具の準備も必要です。さらに、発表し話し合うための方法も検討しなければなりません。

【一人学びの工夫】

- ノート指導
- 教材・教具の活用
- ワークシートの工夫

【発表・話し合いの工夫】

- ホワイトボード等の活用
- 書画カメラ等の活用
- 発表話型の活用

6 まとめ

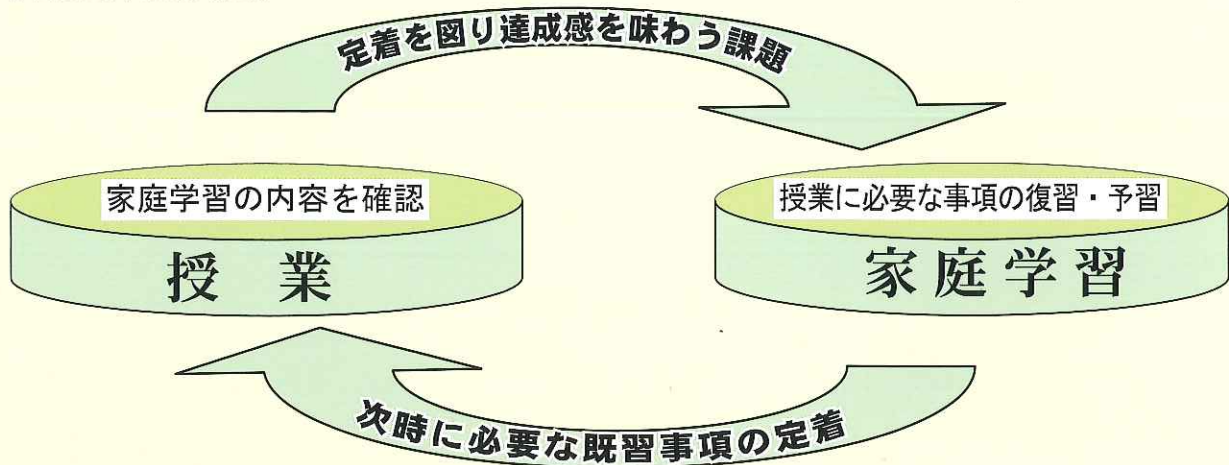
子どもたちの考えを練り上げ、めあてに即してまとめる過程は、本時の基礎的・基本的な内容を定着させるために最も大切な時間です。ここをおろそかにしてしまうと、この1時間で何を学習したのかははっきりしないことになってしまいます。子どもたちが、この1時間は「〇〇を学習した」と一言で言えるようなまとめになるよう工夫しましょう。

- まとめる際には、めあてに即したものになっているか、子どもと一緒に確認をしましょう。
- まとめた後、自分の言葉でノートに書かせるなどして、確実に定着したかどうか見届けをしましょう。

7 定着を図るドリルや家庭学習の工夫

子どもたちは授業で分かっていても、時間とともにその内容を忘れてしまいます。また、分かったつもりでも、授業で学習したことと少し要素が異なる問題にあたると学習したことをうまく適用できないこともあります。

そこで、本時で学習した基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、ドリルなどの反復学習や家庭学習を工夫しましょう。



8 「教えて考えさせる授業」

これまで述べてきたのは、問題解決型の授業でした。今後は次のような子どもたちに「教えて考えさせる授業」の形態も取り入れ、研究、実践を進めましょう。

{例} 《めあて》
どのようにしたら、三角形の面積は求められるのだろうか。

《教師からの説明》
底辺 × 高さ ÷ 2 = 三角形の面積 ※ 教科書を使って説明

《理解確認課題》
いくつかの三角形を提示し、どこが「底辺」で、どこが「高さ」か考えさせ、発表させる。

《理解深化課題》
ロケットの形をした面積を求めさせる課題を考えさせる。

《まとめ》
めあてと公式について、再度説明する。